

海の命 ① 一の場面

一、父はどんな漁師だったのだろう。
分かる言葉や文を書き出し、思ったことや考えたことを書こう。

どんな漁師だったか分かることばや文	思ったこと・考えたこと

二、父にとって海は、どんな海だったのだろう。一言で表してみよう。
また、その理由も書きましよう。

一言で表すと

その理由

海の命 ② 二の場面

二、与吉じいさはどんな漁師だったのだろうか。
分かる言葉や文を書き出し、思ったことや考えたことを書こう。

どんな漁師だったか分かる文	思ったこと・考えたこと

三、与吉じいさにとって海は、どんな海だったのだろうか。一言で表してみよう。
また、その理由も書きましよう。
与吉じいさにとっての海を一言で表すと

その理由

海の命 ③ 三の場面

一、太一は、与吉じいさからどんなことを受け取ったのでしょうか。分かる言葉や文を書き出し、思ったことや考えたことを書こう。

(ヒント:釣りの技術でしょうか、釣りの心でしょうか)

与吉じいさから受け取ったことが分かる言葉や文	思ったこと・考えたこと						
------------------------	-------------	--	--	--	--	--	--

二、太一が与吉じいさから受け取ったことを一言で表してみよう。また、その理由も書きましよう。

海の命 ④ 四の場面

一、母の気持ちをかんがえてみよう。
分かる言葉や文を書き出し、思ったことや考えたことを書こう。

母の気持ち分かる言葉や文	思ったこと・考えたこと

二、母にどつての海を一言で表してみよう。

三、太一が海に飛びこんだときの、海のイメージを一言で表し、根拠となる言葉や文を書き出しましょう。

クエのイメージ (例) 気持ちよい きれい そう大 暗い 怖い にくしみ (あなたの言葉)	上のように感じた文や言葉を 全て書き出そう。
⇔	「情景」 登場人物などで、 持ちとひびき あい、一体の ものとなった 風景や様子。

追い求めているうちに、百五十キロはゆうにこえているだろう。

一、五の場面の1を読んで、大きなクエの描写を読み取るう。

クエのイメージ	上のように感じた文や言葉を全て書き出そう。
(例) きれい こわい ぶきみ 巨大 偉大 (いだい) (あなたの言葉)	「情景」 登場人物の気 持ちとひびき あい、一体の ものとなった 風景や様子。

二、みんなと勉強して、クエのイメージが変わりましたか。

それとも初めのイメージと同じでしたか。
 もう一度、クエのイメージを一言であらわし、その理由を書きましよう。

興奮していながらこの海の命だと思えた。

一、場面の最後の方に、「太一は瀬の主を殺さずに済んだのだ。」とありますが、この言葉にはどのような意味が含まれているのでしょうか。

以前は、（

）と思っていた。

しかし、

今は、（

）と思っている。

一、太一の気持ちの変化を読みとろう。

「二」には、A、B、Cの記号を書き入れましょう。
 A…クエを殺さなければならぬという気持ち
 B…クエを殺すか、殺さないか迷っている。
 C…クエを殺したくないという気持ち

太一の行動や思ったこと（本文） この自分が自分の追い求めてきたまぼろしの魚		理由
村一番のもぐり漁師だった父を破った瀬の主なのかもしれない。		
太一は鼻づらに向かつてもりをつきだす		
この大魚は自分に殺されたがっているのだと、太一は思ったほどだった。これまでも数限りなく魚を殺してきたのだが、こんな感情になったのは初めてだ。		
この大魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にならないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。		
水の中で太一はふつとほほえみ、口から銀のあぶくをだした。		
もりの刃先を足の方にどけ、クエに向かつてもう一度えがおを作った。		
「おとう、ここにおられたのですか。また会いにきますから。」		
大魚はこの海の命だと思えた。		

海の命 ⑦ 六の場面

一、次の四つのことは、この作品全体でどのような意味を持つと思いますか。あなたの考えを書いてください。（書けるものだけでよい。）

① 太一がけっこんし、四人の子供を育てたこと。

② 母がおだやかで満ち足りた、美しいおばあさんになったこと。
（四の場面との対比）

③ 太一が村一番の漁師であり続けたこと。

④ 巨大なクエにもりを打たなかったことを、生がいだれにも話さなかったこと。